

## 伊豆東岸定置網における主要魚種の

### 令和元年下半期の漁況経過と令和2年上半期の漁況予測

#### 1 令和元年下半期(7~12月)の経過

##### (1) 総漁獲量

伊豆半島東岸大型定置網7か統(伊豆山、古網、川奈、富戸、赤沢、北川、谷津)における令和元年7~12月の魚種別月別漁獲量を表1に示しました。総漁獲量は1,139トンで、前年(1,417トン)の80%、平年(昭和57~平成30年の平均:1,865トン)の75%でした。

##### (2) 魚種別漁獲量

###### (ア) ブリ

ブリ(ぶり、わらさ、いなだ、わかし)の漁獲量は118トンで、前年比4.8倍、平年比1.6倍でした。銘柄別にみると、ぶりは0.7トンで、前年比1.3倍、平年比9%でした。わらさは4.2トンで、前年比63%、平年比21%でした。いなだは3.2トンで、前年比61%、平年比12%でした。わかしは110トンで、前年比9.1倍、平年比5.6倍と前年、平年を大きく上回りました。

漁獲されたブリは、7月は尾叉長30cm以下のわかし主体、8月以降は30~40cmのわかし主体でした。

###### (イ) マアジ

マアジ(じんだ:小型当歳魚銘柄を除く)の漁獲量は28.5トンで、前年の1.7倍、平年の22%と、平年を下回る低調な漁獲でしたが、前年を上回りました。じんだ(小型当歳魚)の漁獲量は3.5トン、前年比8.1倍、平年比13%と、平年を下回る低調な漁獲でしたが、前年を大きく上回りました。

漁獲されたマアジは、7月は尾叉長11~14cmの0歳魚(2019年級群)主体で、これらは12月には16~18cmに成長しました。

###### (ウ) さば類

ゴマサバの漁獲量は274トンで、前年比82%、平年比48%でした。月別に見ると、9月は前年比17%、平年比8%と極めて低調な漁獲でした。漁獲されたゴマサバは、尾叉長30~35cm主体に、8月は20~25cmの当歳魚も漁獲されました。

一方、マサバの漁獲量は23.4トンで、前年比2.2倍、平年比71%であり、月別に見ると7月および12月に前年、平年を上回りました。漁獲されたマサバは尾叉長35cm前後主体に漁獲されました。

さばっこ(ゴマサバ、マサバの小型当歳魚銘柄)の漁獲量は26.0トンで、前年比54%、平年比61%でした。

表1 伊豆東岸大型定置網7か統月別漁獲統計 (kg)

魚種名(銘柄)	7月	8月	9月	10月	11月	12月	総計
ブリ(ぶり)	9			95	217	418	738
ブリ(わらさ)	1,001	119	151	903	1,594	440	4,208
ブリ(いなだ)	266	1,587	586	361	306	136	3,241
ブリ(わかし)	1,338	12,079	21,307	19,891	51,201	4,201	110,016
ヒラマサ	1	1		13	1	7	22
カンパチ	757	506	291	12,882	1,709	316	16,460
マサバ	11,158	1,032	1,421	2,060	349	7,338	23,359
ゴマサバ	72,772	90,545	9,677	62,274	28,802	9,496	273,566
さば類(さばっこ)	12,245	8,977	2,240	1,431	834	228	25,955
マイワシ	42,262	8,181	326	58,762	1,168		110,699
カタクチイワシ	2,790	650		10			3,450
ウルメイワシ	5,171	3,086	4,713	283	5,411	73	18,736
マアジ	5,392	6,454	4,234	4,666	4,828	2,890	28,463
マアジ(じんだ)	719	928	1,179	633	28	23	3,510
ヤマトカマス	3,562	16,555	33,082	42,426	3,868	163	99,655
マルソウダ	14,900	13,084	850	34,022	14,838	1,147	78,841
クサヤモロ	5,930	22,027	6,997	16,118	7,317	47	58,437
シイラ	9,443	6,842	9,727	10,792	4,386	391	41,580
イサキ	4,441	2,982	3,149	24,483	3,511	1,972	40,537
オアカモロ	3,142	11,001	389	658	7	20,375	35,571
アカカマス	570	392	4,360	9,318	5,882	1,248	21,770
ヒラソウダ	6,890	7,971	181	622	3,342	2,478	21,484
モロ	2,793	6,591	860	2,951	204	735	14,136
フグ類	644	134	309	1,822	3,914	7,022	13,845
メアジ	67	524	414	2,402	2,853	1,827	8,087
ムツ	1,328	2,564	1,713	1,234	595	391	7,824
ヘダイ		423	5,279	138			5,840
ウスバハギ	10	810	1,373	1,489	440	634	4,756
トビウオ	980	825	1,022	801	192	13	3,834
シロカジキ		105	1,704	1,240	439		3,488
サワラ	872	253	11	285	585	553	2,557
ウマヅラハギ・大中	10	23	536	1,382	14	375	2,341
サンマ					708	1,370	2,078
スルメイカ	543	1,054	427	181	336	6,700	9,241
スルメイカ(こいか)	0						0
ヤリイカ	90	159	68	96	68	52	533
アオリイカ	75	27	61	258	397	426	1,244
その他	5,648	8,850	7,684	7,125	4,767	4,599	38,672
総計	217,818	237,342	126,318	324,104	155,108	78,081	1,138,771

## 2 主要魚種の令和2年上半期(1～6月)の見通し

主要魚種の令和2年上半期の見通しについて、太平洋いわし類マアジさば類長期漁海況予報会議および相模湾定置網漁海況予測協議会での協議事項をもとに取りまとめた結果について表2に示します。

表2 伊豆東岸大型定置網における令和2年上半期の漁況予測

マアジ	来遊量は前年を上回る（前年上半期漁獲量：31トン）。 体長20cm前後主体。
マサバ	来遊量は前年を上回る（前年上半期漁獲量：174トン）。 体長30～35cm主体。
ゴマサバ	来遊量は前年を下回る（前年上半期漁獲量：268トン）。 体長30～35cm主体。
マイワシ	来遊量は前年並み（前年上半期漁獲量：110トン）。 体長13～15cm主体に18cm以上も漁獲される。
カタクチイワシ	来遊量は低調な前年並み（前年上半期漁獲量：48トン）。 体長9～11cm主体。
ブリ	来遊量は前年並み（前年上半期漁獲量：249トン）。 ぶり・わらさ銘柄主体。

### マアジ

近年、マアジ太平洋系群の資源は低調に推移しています。伊豆東岸定置網における漁獲量についても、2010年頃より減少傾向で推移しており、近年は、不漁であった1980年代と同レベルの低水準となっています。ジンダについても漁獲は低調ですが、2019年下半期は前年を上回りました。

例年、上半期は体長（尾叉長）20cm前後の1歳魚主体に漁獲されています。上半期の漁獲量は、前年の0歳魚漁獲尾数と比例関係にあります。2019年の0歳魚漁獲尾数は前年を上回ったことから、今期の来遊量は前年を上回ると予測しました。

### マサバ

マサバ太平洋系群資源は近年増加傾向で推移しており、伊豆東岸定置網における漁獲量も増加傾向で推移しています。

2001年以降、上半期は概ね体長（尾叉長）30～35cm主体に漁獲されています。資源量は増加傾向を示しており、1970年以降最高水準となっていること、近年の伊豆東岸定置網における漁獲量も増加傾向にあることから、今期の来遊量は前年を上回ると予測しました。

## ゴマサバ

ゴマサバ太平洋系群資源は近年減少傾向で推移しており、伊豆東岸定置網における漁獲量も減少傾向で推移しています。

2001年以降、上半期は概ね体長（尾叉長）30～35cm主体に漁獲されています。資源量は減少傾向を示しており、1995年以降最低水準となっていること、近年の伊豆東岸定置網における漁獲量も減少傾向にあることから、今期の来遊量は前年を下回ると予測しました。

## マイワシ

マイワシ太平洋系群の資源は近年増加傾向で推移しており、伊豆東岸定置網における2019年上半期の漁獲量は前年を上回りました。

例年、上半期は体長（被鱗体長）13～15cmの1歳魚主体に、体長18cm以上の2歳魚以上も漁獲されています。1歳魚は2019年下半期の漁獲量が低調であったことから相模湾内の資源水準は低いと考えられますが、太平洋沿岸における2歳魚以上の資源水準は高く、相模湾内への黒潮からの断続的な暖水波及による2歳魚以上の来遊が期待できることから、今期の来遊量は前年並と予測しました。

## カタクチイワシ

カタクチイワシ太平洋系群資源は減少傾向で推移しており、伊豆東岸定置網における漁獲量も減少傾向で推移しています。

例年、上半期は1歳魚（被鱗体長9～11cm）主体に漁獲されています。カタクチイワシの資源水準は低く、また、伊豆東岸定置網における2019年の漁獲量も低調であったことから、今期の来遊水準は低調な前年並と予測しました。

## ブリ

ブリ太平洋系群資源は近年高水準で推移しており、伊豆東岸定置網における漁獲量も高い水準にあります。

例年、上半期はぶり・わらさ銘柄主体に漁獲されています。令和元年度資源評価では資源動向は減少としており、伊豆東岸定置網におけるぶり・わらさ銘柄の上半期漁獲量も減少傾向にあります。資源水準は高位であり、資源量と伊豆東岸定置網のぶり・わらさ銘柄漁獲量は比例関係にあることから、今期の来遊量は前年並みと予測しました。但し、黒潮の離接岸や水温分布等の海況条件により、ブリの回遊パターンは変化する可能性があり、来遊量は増減すると考えられます。

（鈴木勇己）